

## 吹付け用高靱性ポリマーセメントモルタル

# フィックスFD

フィックスFDは、高強力ポリエチレン繊維とアクリル系特殊粉末樹脂を配合した、プレミックスタイプの吹付け用高靱性ポリマーセメントモルタルです。高強力ポリエチレン繊維配合により、靱性、曲げ強度、引張強度などを向上させ、ひび割れの低減とひずみ分散作用により、有害なひび割れに対しての抑制効果が得られます。

### 特長

- ▶ **靱性補強効果** 短繊維の高強力ポリエチレン繊維が、モルタル内で分散し、絡み合い一体化することで高い靱性補強効果が得られます。
- ▶ **ひびわれの抑制・分散効果** 繊維高配合により引張強度向上にて応力集中を防ぎ、ひび割れ幅を小さく分散し、有害なひび割れに対しての抑制効果が得られます。
- ▶ **作業性** ダレ、ズレがなく吹付け性は良好、粉末樹脂のベタツキを抑えたことで、仕上げのコテ離れも優れており、左官での施工も可能です。
- ▶ **接着性** 接着性に優れた特殊粉末樹脂の適正添加により、液体樹脂と変わらぬ接着力が得られます。

### 用途

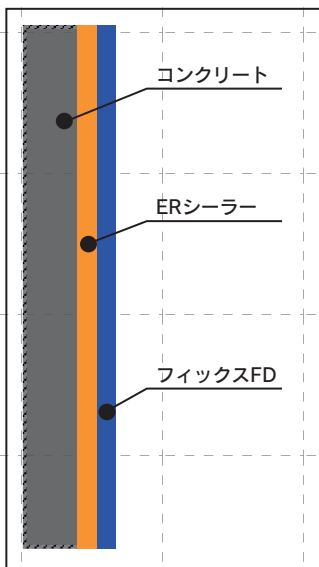
▶ コンクリート構造物の欠損部断面修復 ▶ 壁・床面全面補修 ▶ 水利構造物の補修・補強

### 配合及び材料使用量

荷姿 (配合)	粉体	15kg
		FDファイバー
	水	2.8~3.2kg
材塗 料リ 使用 厚 量別 (kg/m <sup>2</sup> )	5mm	8.60
	10mm	17.19
	20mm	34.38
	30mm	51.57
	40mm	68.76
	50mm	85.95
積算比重		1.719
練上り量		8.77 ℓ
1m <sup>2</sup> 使用量		1.719kg (114セット)

### ●フィックスFD

### ●施工図



- 荷姿(15.08kgセット)
  - ・粉体 15kg
  - ・FDファイバー 80g



- 荷姿
  - ・18kg缶
  - ・4kgポリ容器入り

### 配合及び材料使用量

### ●ERシーラー

	配合		標準塗布量	標準施工面積
	ERシーラー	水		
プライマー	18kg (1)	27kg (1.5)	200g/m <sup>2</sup>	225m <sup>2</sup>
	4kg (1)	6kg (1.5)		50m <sup>2</sup>
仕上げ助剤	18kg (1)	27kg (1.5)	100g/m <sup>2</sup>	450m <sup>2</sup>
	4kg (1)	6kg (1.5)		100m <sup>2</sup>
養生剤	18kg (1)	27kg (1.5)	150g/m <sup>2</sup>	300m <sup>2</sup>
	4kg (1)	6kg (1.5)		66m <sup>2</sup>



※必要に応じて仕上げ助剤、養生剤をご使用下さい。現場状況等により配合、塗布量が変わることがあります。

## 施工要領

### ① 下地処理

脆弱部や付着物の除去、亀裂処理等断面修復材の性能が低下しないように十分な下地処理を行う。

### ② プライマー塗布

下地とフィックスFDとの接着を高めるため、ERシーラーを塗布する。指触乾燥するまで養生する。

### ③ 混練

粉体と水を規定量計量し、モルタルミキサーで混練する。攪拌開始から2分程度を目安に、FDファイバーを散らせながら投入し、さらに2分程度攪拌する。材料が均一になったら過度の攪拌はしない。

### ④ 吹付け

プライマー養生後、フィックスFDを施工する。吹付け前にはセメントノロ、フィックスFDの順に圧送し、セメントノロが出尽くしフィックスFDが完全に始まったタイミングで吹付けを開始する。吹付けを開始する際、あらかじめエアを出しておき圧送する。壁面など横向き施工で20mm、天井面など上向きで施工で10mmを推奨する。2層目以降は、前層が十分に締まったことを確認し吹付ける。最終仕上げは、フィックスFDが締まった後に、適宜金ゴテを用いて表面を平滑で緻密に仕上げる。

※左官施工の場合は、プライマー養生後、1層目シゴキ塗りした後、所定の厚みに塗り付ける。モルタルの締まり状態を確認し、適宜金ゴテを用いて表面を平滑で緻密に仕上げる。

※必要に応じ養生上げて仕上げ助剤(ERシーラー)を使用する。

### ⑤ 養生

雨水や直射日光を避けて1日以上養生する。

※必要に応じ、フィックスFD硬化後に養生剤(ERシーラー)を塗布する。

## 性能

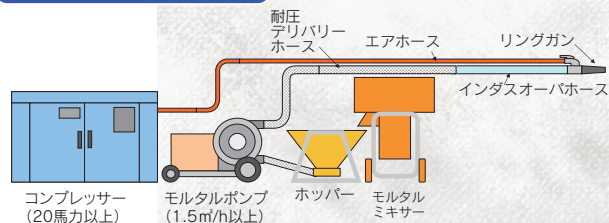
### ●一般物性

項目	材齢	試験結果	試験方法
圧縮強度 (N/mm <sup>2</sup> )	7日	38.9	JIS A 1171 (ポリマーセメントモルタルの試験方法)
	28日	63.8	
曲げ強度 (N/mm <sup>2</sup> )	7日	7.4	JIS A 1171 (ポリマーセメントモルタルの試験方法)
	28日	17.9	
接着強度* (N/mm <sup>2</sup> )	7日	2.6	建研式 温度20℃
	28日	3.1	
長さ変化率 (%)	28日	-0.041	JIS A 1129 <sup>-3</sup> (ダイヤルゲージ法) モルタル及びコンクリートの長さ変化試験方法
熱膨張係数 ( $\times 10^{-5}/^{\circ}\text{C}$ )	28日	1.37	JIS K 6911(熱硬化性プラスチック一般試験方法) 温度範囲(-20~60℃)
静弾性係数 (kN/mm <sup>2</sup> )	28日	24.2	JIS A 1149 (コンクリートの静弾性係数試験方法)
曲げ靱性係数 (N/mm <sup>2</sup> )	28日	7.3	JSCE G 552 (鋼繊維補強コンクリートのタフネス試験方法)
割裂引張強度 (N/mm <sup>2</sup> )	28日	6.5	JIS A 1113 (コンクリートの割裂引張試験方法)
透水量 (g)	28日	1.5	JIS A 1404 (建築用セメント防水材試験方法) 水圧及び時間: 0.3Mpa×1時間
摩耗量 (g)	28日	1.9	JIS K 7204 (摩耗輪による摩耗試験方法) 輪荷重: 1kg 摩耗輪: H-22 1000回転
表面水分量 (%)	3日	7.9	高周波容量式水分計 塗り厚20mm: 温度20℃
	7日	6.3	

※ ERシーラー使用

注)上記は当社実験室で試験を行った結果であり、品質保証値ではありません。

## 吹付け装置一例



### ■ 使用上の注意

- ・ご使用に際してはSDS(安全データシート)をよく読んで下さい。
- ・製品は直射日光、湿気を避け5~35℃で保管して下さい。
- ・防錆仕様の場合は、1セットにつき400gのアルカド(亜硝酸リチウム水溶液)を配合して下さい。
- ・低温時、施工、養生中に5℃以下が考えられる場合は凍害防止のため採暖を行って下さい。
- ・施工環境が直射日光下で気温が35℃を超える場合は、施工を避けて下さい。ホースやホース内が熱せられ圧送性が著しく低下します。施工環境が直射日光下ではない場合、練り上がり温度は35℃以下(望ましくは30℃以下)になるように冷水等で調整して下さい。
- ・長時間の直射日光が当たる場合や強風の場合はシート養生を行って下さい。
- ・練り水は水道水水質と同等のものを使用して下さい。不純物が硬化時間等に影響することがあります。
- ・一度練った材料の練り返しはしないで下さい。
- ・ホース長は30m以内までを推奨します。
- ・開封した製品は、即日中に使い切るか、余った場合は、ビニール袋等に密封し、開封後一週間以内に使用して下さい。性能低下の恐れがあります。
- ・廃棄する場合は、許可を受けた産業廃棄物処理業者に委託して下さい。

### ● 本資料について

本資料の技術情報は、当社の試験・研究に基づいたもので、信頼しうる情報と考えられます。しかし、記載の諸性能および特性などは、施工条件などにより本資料と異なる結果を生じることがあります。

本資料の記載事項は、予告なしに変更する場合がありますので、予めご了承下さい。

### 代理店



特殊セメントの分野を大きくリードする

**エレホン・化成工業株式会社**  
EREWHON

<http://www.erewhon.co.jp/>

● 本社・工場	〒870-0141	大分県大分市三川新町1-2-23	TEL (097) 552-2251	FAX (097) 552-2213
● いわき工場	〒979-3112	福島県いわき市小川町上平字中平30-3	TEL (0246) 83-2600	FAX (0246) 83-2677
● 大阪支店	〒532-0003	大阪府大阪市淀川区宮原5-1-3	TEL (06) 6842-7500	FAX (06) 6842-7544
● 福岡支店	〒814-0151	福岡県福岡市城南区堤1-9-10	TEL (092) 874-6990	FAX (092) 862-6398
● 関東支店	〒224-0003	神奈川県横浜市都筑区中川中央2-5-13-3F	TEL (045) 534-9656	FAX (045) 534-9657
● 仙台支店	〒984-0012	宮城県仙台市若林区六丁の目中町6-2	TEL (022) 287-7221	FAX (022) 287-7222
● 名古屋支店	〒463-0048	愛知県名古屋守山区小幡南3-5-21	TEL (052) 758-1889	FAX (052) 758-1890
● 札幌営業所	〒007-0805	北海道札幌市東区東苗穂5条3-2-32	TEL (011) 786-6051	FAX (011) 786-6052
● 新潟営業所	〒950-0963	新潟県新潟市中央区南出来島1-10-23	TEL (025) 280-9282	FAX (025) 283-6262
● 静岡営業所	〒422-8058	静岡県静岡市駿河区中原743-1-1F	TEL (054) 270-9380	FAX (054) 270-9381
● 北陸営業所	〒920-0027	石川県金沢市駅西新町2-11-25	TEL (076) 204-9417	FAX (076) 204-9418
● 広島営業所	〒739-1731	広島県広島市安佐北区落合2-41-22	TEL (082) 841-2350	FAX (082) 841-2350
● 熊本営業所	〒861-8045	熊本県熊本市東区小山2-14-47	TEL 050-3399-7419	FAX (096) 388-6227
● 鹿児島営業所	〒890-0082	鹿児島県鹿児島市紫原1-51-25	TEL (099) 284-0533	FAX (099) 284-0535
● ㈱エレホン・技研本社	〒781-0270	高知県高知市長浜5226-13	TEL (088) 805-2332	FAX (088) 841-2322
● ㈱エレホン・技研松山営業所	〒791-8042	愛媛県松山市南吉田町1450-6	TEL (089) 974-8225	FAX (089) 974-8230